



[東京都 ^{みくらしま} 御蔵島] ^{うみとんちゅまる} 海豚人丸

- 02 ~ 島民とイルカとの上手な共生関係 ~ 地域の観察ルールで楽しむイルカウォッチング

！ 注目ポイント

- ・東京都と村のエコツーリズム協定により、イルカの生態に配慮したドルフィンウォッチング&スイムツアーを季節限定で展開
- ・イルカの生態、暮らしを優先した島独自の観察ルールを設けてウォッチングツアーを実施
- ・参加費に海域協力金(300円)を含み、人とイルカの共存を図るためのイルカ調査に活用
- ・東京都認定自然ガイドである船頭、ガイドがイルカと島の原生林(ガイド同行の規制あり)を案内

📍 地域の情報

御蔵島は、東京都心から南へ約200km離れた人口300人程の小さな島です。スダジイの大木を有する原生林のある自然豊かな火山島で、周辺海域にはミナミバンドウイルカが生息しています。



📄 取り組みの背景と概要



小笠原諸島などで地域独自の観察ルールを定めて、クジラ、イルカウォッチングが進められる中、御蔵島でも事前に御蔵島イルカ協会によるイルカウォッチングの自主ルールが定められました。海豚人丸もこの動きに合わせてツアーをスタート。船頭とガイドは、東京都認定自然ガイドの資格をもち、イルカ本来の生活を優先し、観察による影響を与えないツアーを心がけています。2004年には東京都エコツーリズム協定により、イルカウォッチングができる季節が限定となるなど、貴重な観光資源であるイルカの保護と利活用が進められてきました。

✅ 東京都エコツーリズム協定と御蔵島の自主ルール



東京都と御蔵島村との間でエコツーリズム協定が結ばれたことで、それまで無秩序に行われていたイルカウォッチング事業への規制が行われるようになりました。

また、御蔵島イルカ協会(解散)から引き継いだ御蔵島観光協会が中心となってイルカと人間とのより良い関係形成のため、自主ルールの遵守を呼び掛けています。

【東京都エコツーリズム協定でのルール】

- ・保全促進地域：御蔵島全体と汀線より1kmの範囲
- ・利用期間：3/15～11/15(冬期間は休止)
- ・利用時間：5:30～17:30(1出港あたり最長3時間)
- ・隻数上限：45隻/日(御蔵島船30隻、三宅島船15隻)
- ・1隻当たりの上限：スイムの場合13名、船上観察の場合法定定員

【自主ルール】

- ・イルカの食事や交尾、出産などの自然な行動を妨げない。
- ・小さい子供を連れた群れにはこちらから接近しない。
- ・水中で寄って来ないイルカのグループには再度エントリーしない。
- ・イルカに触らない。触ろうとしない。
- ・イルカに餌を与えない。
- ・スキューバダイビングでイルカに接近しない。
- ・ホイッスル、ダイビングコンピューターなど、人工音を発する器具は使用しない。
- ・水中カメラで撮影するときはフラッシュを使用しない。
- ・「自撮り棒」は水中に持ち込まない。

🔭 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・ドルフィンウォッチング&スイムツアー
(2時間 大人8,500円、小学生以下7,500円
*海域協力金300円含)

📝 ガイドの質の維持向上のための東京都認定ガイド講習



東京都は認定ガイドの資格を維持するために2年に一度、受講(講習時間、新規：22時間、更新：10時間)を課し、ガイドの質の維持向上を図っています。受講資格者は、御蔵島に住民票がある島民に限定しており、島民以外は、御蔵島村長の推薦が必要で、外部からのガイドが極端に増えるのを防いでいます。

➡ 団体などの詳細はこちら

- 【海豚人丸HP】 <http://umiton.blue.coocan.jp/>
- 【御蔵島観光協会自主ルール】
https://mikura-isle.com/?page_id=379

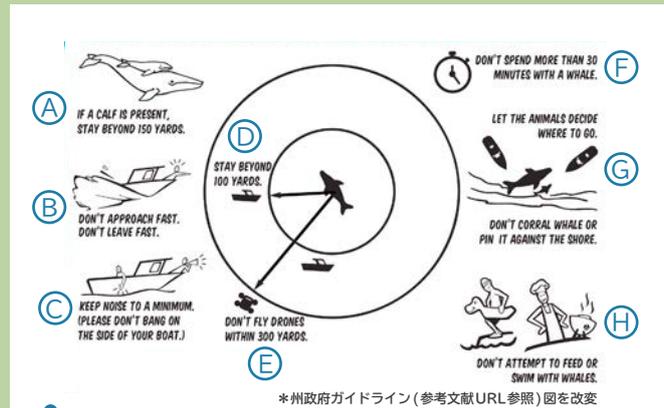


【アメリカ オレゴン州】

コククジラのウォッチングガイドライン

アメリカ・オレゴン州のホエールウォッチング産業の成長は著しく、その経済効果は2008年には約3,000万アメリカドル(約32億6,700万円、1ドル=109円換算)に達し、この地域だけで64万5千人以上もの集客がありました。この海域はコククジラの太平洋グループが利用する採餌エリア(B34 The Pacific Coast Feeding Group of Gray whales(PCFG))として指定されており、同時にホエールウォッチング船を含む様々な船舶の往来が集中する海域でしたが、この海域における鯨類への配慮に関する船舶の運航ガイドライン(鯨類への配慮に関するもの)は存在しておらず、ホエールウォッチングの事業者たちは、30年にわたる観察船の運航の歴史の中で、コククジラがこの海域を離れたことはなく、地域ルールで十分であり個体に配慮したガイドラインの設定は不要だと考えていました。

しかし、2015年に「船舶のコククジラへの影響」を調査する2カ年のプロジェクトが完了したことで、ウォッチング事業者たちは州政府によるガイドラインによって運航が規制されることに懸念を抱きました。そこで、調査に携わった科学者たちは4回にわたるワークショップや啓発イベントなどを通して、最新の調査結果を事業者や地域住民に共有したり、他の地域で導入しているガイドラインについて解説したりするなどして、事業者や地域住民との交流を続けました。その結果、全てのステークホ



*州政府ガイドライン(参考文献URL参照)図を改変

全ての船舶に対するガイドライン

- (A) 子クジラがいる場合は150ヤード(約138m)距離をあげる
- (B) 急速での接近や退避をしない
- (C) 音の発生は最低限に抑える(船体をたたいて音を出さない)
- (D) クジラから100ヤード(約92m)の距離を常に保つ
- (E) クジラから300ヤード(約275m)以内ではドローンを使用しない
- (F) 30分以上はクジラの周辺に滞在しない
- (G) クジラの移動を妨げず、船舶で囲まない、岸に追い込まない
- (H) クジラに餌を与えたり、一緒に泳がない

ルダー(利害関係者)を巻き込む形で、この海域のコククジラと観光産業やその他の海洋産業が持続可能な形で共存するためのガイドラインが作成されました。

このような地域に根差した自主ガイドラインは、日本においても導入されており、クジラ、イルカウォッチングが盛んな地域には概ねホエールウォッチング協会が存在しています。小笠原ホエールウォッチング協会(<http://www.owa1989.com/watching>)などがその代表例です。

【参考文献】 Assessment of vessel disturbance to gray whales to inform sustainable ecotourism
<https://wildlife.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/jwmg.21462>

【州政府ガイドライン】 <https://watchoutforwhales.org/>

アメリカとカナダの国境海域に棲む世界一汚染されたシャチの群れ

アメリカとカナダに跨る海域のプージェットサウンド(Puget Sound)を利用するシャチの群れは、生物濃縮により化学物質を体内に蓄積することによる汚染が深刻で、世界的に最も汚染されたシャチの群れとして知られています。このシャチの群れの個体数は急激に減少しており、その主な原因は餌不足、海水の汚染(化学薬品の流入)、船舶の騒音による悪影響などと考えられています。シャチはカナダとアメリカの両国で絶滅危惧種として指定されており、2018年にはブリティッシュコロンビア州(カナダ)、ワシントン州(アメリカ)の両州と船舶会社、ホエールウォッチングツアー会社、環境NGO、大学機関などの様々なステークホルダー(利害関係者)が集まり、このシャチの群れの保護プロジェクト(The Southern Resident Orca Task Force(SROTF))を立ち上げました。このプロジェクトには多額の資金が投入され、あらゆる対策を実施していますが、未だに生息数の減少に歯止めがかからず、絶滅の危機は増すばかりです。

このシャチの群れは、たとえ莫大な資金と労力を費やしても、一度バランスが崩れた生態系や野生生物の生息数を回復させることがいかに難しく、時間がかかることなのか、そして時には不可能であるかを教えてくれています。

【参考文献】 <https://www.governor.wa.gov/issues/issues/energy-environment/southern-resident-orca-recovery/task-force>



- 03

[沖縄県 金武町] 合同会社 沖縄ネイチャーオフィス
 ～ マングローブ林と田芋畑、水田域などの湿地を地域振興に活かす ～
 バードウォッチングを中心とした自然体験による観光誘致の展開

! 注目ポイント

- ・日本最北端のヒルギモドキを含むマングローブ群落を守り、その保全を基盤として、観光資源や環境学習などの場としての価値を広めるために地域に協議会を設立
- ・鳥類観察ツアーのフィールドは、県内最大級の田芋畑を含む水田域(湿地)
- ・鳥類保全と農業振興が一体となった取り組みと、それらを活用した地域ならではのストーリーがあるアドベンチャーツーリズムの企画を進行中

📁 取り組みの背景と概要



- ・きっかけは、金武町によるマングローブカヌーガイドの養成研修の講師を担ったことでした。
- ・金武町に生息する鳥類を長きに渡り調べており、鳥類を通して見える町の特徴と魅力を伝えることが、観光のコンテンツとなり、地域振興が図れると強く感じました。
- ・教育委員会の協力を得て、「金武町で確認された鳥類の記録」を冊子にまとめ、同時によく見られる鳥類と観察方法を記した普及版パンフレットを作成して、町内の学校、生徒、観光事業者、農家などに無料配布しました。
- ・マングローブだけでなく、県内最大級の田芋畑と水田地が多く鳥類の生息地、繁殖地となっており、その継続、振興は鳥類の保護につながります。鳥類観察ツアーを重ねたことで、野鳥の重要性と観光への貢献が農家にも伝わり、協働で地域振興にあたっています。
- ・近隣のふくらしやや自然体験塾やネイチャーみらい館とも相互協力して、旅行者の受け入れなどの体制を整えています。更に町内の魅力をつなげて、アドベンチャーツーリズムを展開しようとコンテンツの作成を進めています。

🔍 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・金武町でバードウォッチング (90分:大人4,000円、子供2,500円)
- ・億首川マングローブ観察 (同上)
- ・やんばるの固有種3種ツアー (5時間:大人13,000円以上、子供12,000円以上)



📍 地域の情報

億首川の河口近くにマングローブ林があり、この河川の両岸とさらに町の南側にある武田原(ンタバ)地区、西方にある屋嘉地区や伊芸地区にも田芋畑や水田が広がっています。

こうした河川と湧水地が水源となった湿地的環境が、タマシギやクイナ類、サギ類を含む数多くの鳥類の生息地や繁殖地となっています。



⚖️ 環境保全と経済の両立



- ・町の見どころ、アクティビティは、マングローブ観察とカヌー体験です。日本最北端のヒルギモドキを含むヒルギ群落を過度な利用から守り、持続的な活用を図るため、億首川環境保全推進連絡協議会を設立しました。その価値を広めるために天然記念物指定を目指しています。
- ・鳥類の生息には餌場となる河口部の干潟が重要です。マングローブ植物の無計画な植栽は、こうした環境を変貌させ甲殻類などが暮らす干潟の減少を伴う場合が多々あります。これは、鳥類の餌場を奪い、留鳥や飛来する渡り鳥の減少を伴うことから、植栽に頼らず、群落を健全な形で修復する方法などが検討、実践されています。田芋畑は多くの鳥類の繁殖地です。農家と協働で、その振興にあたっています。

📢 ターゲットと情報発信



世界のバードウォッチング需要は欧米人を中心に非常に高いことから、特に鳥類を対象としたツアーを展開しています。やんばる国立公園が世界自然遺産登録されると考え、インバウンド旅行者(訪日外国人旅行者)対応のスタッフが在籍し、英語で情報を発信する準備を進めています。

➡ 団体などの詳細はこちら

【沖縄ネイチャーオフィス】 <https://okinawa-nature.com/>
 【ふくらしやや自然体験塾】 <http://www.kin-eco.com/>
 【ネイチャーみらい館】 <https://www.nature-kin.com/>



- 04

[北海道(道東)、沖縄県(西表島)] 株式会社 Wondertrunk&co.

国立公園における野生動物観光のあり方

～ 共生と理解 ～



! 注目ポイント

- ・ターゲットは、アドベンチャーリズムや野生動物を含めた生態系に興味関心の高いインバウンド旅行者
- ・野生動物、自然環境への配慮を求める欧米人のニーズに応え、野生動物と人間との距離間を重視
- ・野生動物が暮らす環境で過ごし、その地ならではのアクティビティを通して感じる気づきや学び(Transformation(自己変革))を得ることができる体験を提供

🕒 地域の情報

道東

野生動物の聖地である知床や、火山活動によって形成された日本最大のカルデラを有する屈斜路湖や釧路湿原などの、豊かな自然環境があります。



📁 取り組みの背景と概要



- ・インバウンド旅行者に焦点を当てたマーケティング調査を実施すると、欧州の人々が自然、野生動物の体験旅行に高い関心を持つことが見えてきました。
- ・そして、野生動物観光においても動物福祉を大事にする欧米旅行者に応えられるコンテンツを作り上げる必要があることを認識しました。
- ・その地域ならではのアクティビティが体験でき、人を魅了する野生動物が生息すること。そして、十分な知識、サービスを提供できる専門家やガイドの確保が必要でした。人脈を辿り、時に紹介を受け、地域の人々と議論を重ねて、コンセプトに共感して下さった方々と出会ったのが北海道の道東地域と沖縄県の西表島です。
- ・丁寧に野生動物に向き合う上質な学びと見どころを備えたプログラムによる感動体験は、インバウンド旅行者のニーズに応えるものとなっています。
- ・また、野生動物への配慮、野生の姿を見るのに欠かせない、彼らとの距離間をプロのカメラマンを通して掴み、コンテンツに反映させました。



西表島

沖縄県八重山諸島に属する島です。大陸と陸続きであった時代があり、イリオモテヤマネコが生息しています。

🏛️ 環境保全と経済の両立



- ・日本の地域とインバウンド旅行者をつなげることには大きな利点があります。例えば、日本人は夏休み、冬休みなどに旅行が限定されますが、インバウンド旅行者は、季節に関係なく訪れます。欧米では、アドベンチャーツアーや野生動物観光についても質を保証し、安心できる旅となるようにABTA(英国旅行業協会)などの業界団体、民間団体などによるガイドラインが設けられています。地域の自然資源の活用法を考えて、世界標準の観光に応える体制づくりを早めに進めることが地域の暮らしを良くすることにつながります。

🔍 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・大自然の中で野生動物と出会うツアー in 知床(2日間 大人23,900～70,100円)
- ・西表島の生態系を学び、大自然の営みを感じるツアー(4日間 大人128,900円～)

📡 ターゲットと情報発信



- ・欧州の方々には視点を絞り見どころがはっきりしたツアーが好まれます。
- ・ツアーの売り込みはマーケティング調査などでつながった欧州の現地旅行会社と連携して進められます。

➡ 団体などの詳細はこちら

[wondertrunk&co] <https://www.wondertrunk.co/ja/company/>

[ABTA(英国旅行業協会)動物福祉ガイドライン] ABTA Animal Welfare Guidelines | ABTA



- 05 [山梨県 小菅村] NPO法人多摩源流こすげ 住民によるNPO法人が核となり、 豊かな自然と文化を次世代へ

！ 注目ポイント

- ・源流とその森を教材に自然との共生を学ぶ「多摩川源流大学」を主催
- ・野生動物との共生をテーマにしたツアーを経て、現在は猟師の技術を学ぶツアーを開催
- ・自然を利用した持続的な付き合い方を継承
- ・村民ガイドと地域連携によるツアーコンテンツ

📖 取り組みの背景と概要



- ・過疎化から村の存続を図るために、小菅村の自然や伝統的な農林業、文化などを村民たちから学び、次世代へつなげる事業を展開しています。
- ・村を守る事業の一環として、村からニホンザルやニホンジカのモニタリング調査の事業を受託し、並行して、野生鳥獣との軋轢や共生について学ぶ調査体験ツアーを企画しました。しかし、事業の終了とともに調査に対応できる人材の確保や、ツアー開催の資金繰りが厳しくなるなどの問題に直面し、開催を中断することとなりました。
- ・しかし、野生生物との共生や命と向き合う学びは、「多摩川源流大学」のプログラムの一つ、「猟師と一緒に山歩き」という狩猟体験の形で継承されていきました。狩猟体験は、閑散期である冬でも観光業や宿泊業の力になりたいと、冬の猟期に着目し、村の猟師から協力を得ることで企画が誕生しました。
- ・また、豊かな水源と水源林に着目し、川の中を歩きながら、ヤマメやイワナの生態について学んだり、森の役割や流域とのつながりを学ぶツアー、「源流体験」も行なっています。こうしたプログラムを通じて、多摩川源流域の自然を守り継承していく人材育成事業を行っています。
- ・今後も、多摩川源流域の自然との持続的な共生関係を築いていくために、ムササビが生息する森の保全やサンショウウオが住める川づくりツアーなどを考えています。
- ・自然の恩恵によって活動が継続できることを常に意識し、その思想を次世代へ継承していきたいと考えています。

👉 団体などの詳細はこちら

【NPO法人多摩源流こすげ】 <http://npokosuge.jp/>

📍 地域の情報

小菅村は山梨県の東北端に位置し、東京都奥多摩町に隣接。多摩川の源流部にあたり、都心から車で2時間で行くことができます。小菅川の源流部は東京都の水源涵養林として、100年以上前から森林の保全が進められ、巨樹巨木が林立する豊かな自然が残されています。



🔍 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- 「多摩川源流大学」：老若男女だれでも参加OK、企業研修、修学旅行など企画しています。
- ・多摩川源流体験
- ・猟師と一緒に山歩き

📢 ターゲットと情報発信



- ・主に首都圏からのファミリーや源流域ならではの自然・文化体験をしたいという人々です。自然体験が初めてという人が多く、参加者のおおよそ半数がリピーターです。





[長野県 軽井沢町] 株式会社 ピッキオ

- 06

～ 観光・別荘地の魅力は自然と野生生物 ～

観光を支えるツキノワグマ保護管理と学習コンテンツ

! 注目ポイント

- ・広大な森が広がる浅間山山塊とそこに暮らす多くのツキノワグマを始めとした野生動物を体験を通して学ぶコンテンツの提供
- ・豊かな自然に支えられる観光・別荘地の軽井沢でのツキノワグマの保護管理
- ・その経験を活かした独自の自然を伝える体験学習で次世代教育

📄 取り組みの背景と概要



- ・森林の開発があちらこちらで行われたバブル末期、ピッキオは軽井沢で誕生します。日本有数の避暑地であった軽井沢の価値は自然によって生み出されており、その自然を維持していく事が、地域経済の持続に欠かせないと考えていました。
- ・当時は、自然、森林に価値を見出す人はまだあまり多くない時代であった為、ピッキオは森林の価値を人々に示すことが必要という考えの下、ネイチャーツアーを実施していました。
- ・そんな折、公共のゴミ捨て場がクマによって荒らされる事件が多発します。当時はその様なクマが出現した場合は、駆除が一般的でしたが、“野生動物との共存”に理解のある軽井沢町と地域住民の協力を得ながら、トラブルや軋轢を回避するための取り組みが始まりました。
- ・野生動物との出会いは軽井沢の大きな魅力ですが、一方で住民の暮らしや観光客の安全も重要です。現在は行政や地域住民などと協力しながら、軽井沢に生息するクマに発信器をつけて監視と対応にあたっています。
- ・そして、この経験を観光、教育、学習旅行などのコンテンツとして活かし、軽井沢の魅力を世界に発信しています。
- ・クマに関する子供向けのプログラム、首都圏の幼稚園から大学生までを対象としたプログラム以外に、地域の小学校から高校までを対象に軽井沢の自然、クマの保護管理などを伝える授業を担っています。



📍 地域の情報

軽井沢町は上信越高原国立公園(普通地域)に属し、浅間山から広がる森は広大で新潟県まで続きます。

*一部鳥獣保護区があります。



📖 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・けもの道ウォーキング (3時間 大人5,000円)
- ・空飛ぶムササビウォッチング (3時間 大人3,400円、子供2,500円)
- ・野鳥の森ネイチャーウォッチング (2時間 大人2,500円、子供1,200円) など

⚖️ 環境保全と経済の両立



- ・豊かな自然とそこに暮らす野生生物。その出会いは、軽井沢の大きな魅力です。住民、観光客の安全を確保した上での野生動物との共存は、軽井沢にとってそのブランド価値を高める重要な取り組みと言えます。
- ・ピッキオでは、軽井沢町などからクマ対策の業務を請けていますが、この取り組みを継続していくために行政だけに頼らなくても運営できる持続可能な仕組み作りを意識しており、エコツアーからの収益も保護管理事業に一部充当する事で、よりバランスのとれた収益構造を目指しています。クマに関する学習旅行の受け入れもその一つです。また、賛同企業、個人からの寄付(ホームページで受付)もあり、様々な主体によって継続される仕組みづくりを進めています。

🎯 ターゲットと情報発信



- ・国内旅行者はもちろんですが、インバウンド旅行者の誘致に力をいれています。スタッフのほとんどは、専門知識に長けているだけでなく英語対応が可能です。
- ・そして、クマの保護管理の成果や軽井沢の自然の特徴などを海外メディアや論文などで発信しています。欧米からのインターンも複数受け入れており、軽井沢のクマの保護管理、魅力の発信につながっています。

➡ 団体などの詳細はこちら

【ピッキオ】 <https://picchio.co.jp/>

野生生物観光と持続可能な開発目標(SDGs)

「誰ひとり取り残さない」社会を実現するため、国連は 2030 年を目標年とした持続可能な開発目標 (SDGs) を採択しました。SDGs を構成する 17 のゴールは、①教育などの社会面、②経済面、③環境面の三側面をカバーしており、統合的に解決していくことを目指しています。この事例集で取り上げた野生生物観光の事例は、野生生物という地域の資源を来訪者に魅せることを通じて、経済的な利益を得られるようにするだけでなく、地域の方が地域への誇りや愛着を育む機会となり、野生生物が生息する自然環境の保全が進み、SDGs の目標達成に貢献するような事業・取り組みであるかという観点から選んでいます。

野生生物の保護や自然環境の保全と観光という経済活動を調和させることには、難しさをはらんでいます。一時の観光ブームにより、無秩序に大勢の人が押しかけ野生生物や自然環境に大きな負荷がかかり、健全な状態でなくなることにより、観光地としての魅力が大きく低下する事態は珍しいことではありません。過度な利用によって一度減少した野生生物や劣化した自然環境を回復させるには、長い時間と資金が必要になります。野生生物観光では野生生物や自然環境を守ること、そして野生生物との出会いに期待する来訪者の感動を深めるためにも正しい知識を広め、来訪の価値をさらに高めることが大切です。



掲載事例は、自然環境に生息する野生生物との向き合い方が、地域社会の発展にとっても大切であることを教えてくれています。より豊かな環境と地域社会づくりに貢献できる「野生生物観光」には、自然とともに生きる私たちの、これからの未来を拓く力があると考えています。

【国連広報センター SDGs】

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

SDGs アイコン(全17目標)の紹介





[青森県 十和田市] NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会 / 株式会社 ESARIO

- 08

～ 持続的な組織経営を目指す ～

インバウンド旅行者を見据えた人材育成と多様な事業展開

! 注目ポイント

- ・奥入瀬らしさのあるコケ、シダに注目したツアーの展開
- ・質や信用度を高めるため、プロとしてネイチャーツアー事業を株式会社化
- ・収入源を多様化させることで、事業運営の多角化でリスクを分散
- ・顧客ニーズの多様化を見越して英語・中国語のガイド養成研修を行う

📍 地域の情報

奥入瀬渓流は、青森県と秋田県の県境に位置する十和田湖(カルデラ湖)から北東へ伸びる渓流で、渓谷地形に流れ込む多くの水流が空中湿度の高い独特の環境を作りだしています。



🔍 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・奥入瀬渓流コケさんぽ
300種類以上のコケ植物が自生する奥入瀬渓流を散策(早朝75分、午後90分 3,500円から)など

📊 経営を維持するための
資金源と株式会社化、リスクヘッジ

- ・青森県では自然環境保全と安全な道路空間の確保を目的に渓流区間へのマイカー乗り入れを規制し、安全に迂回することが出来る道路の建設を目指す「国道103号青ブナ山バイパス事業」が平成25年度から進められています。既存の観光道路としても利用されている国道103号の利活用を考えるために基礎調査であるモニタリング事業が行われ、研究会はこれを担いました。
- ・その成果から水豊かな奥入瀬らしさのあるコケ、シダに注目したネイチャーツアーなどを開催してきました。しかし、ボランティア色の強いNPOではなく、本職として信頼度を高めるためにツアー事業をブランド化することにしました。それが、2019年12月に立ち上げた株式会社ESARIOです。
- ・社員はNPO法人スタッフを兼務しており、2つの組織は、それぞれの役割を持っています。
- ・会社立ち上げ当初から、新型コロナウイルスの流行により、ツアーの開催が中止され、経営の維持に支障が出ていますが、モニタリング事業の受注、奥入瀬の自然と生き物図鑑などを作成し、オンラインショップで販売。ガイドの講演、講師などによる多角的な経営により、資金調達の間口を複数設けることにより、経営リスクの分散対応を実現しています。

📝 ガイド講座
(日本語・英語・中国語)の経緯について

- ・将来、国道がマイカー規制され、歩行でのツアー旅行者の増加が見込まれることから、NPO法人では、青森県上北地域県民局および十和田湖奥入瀬観光機構からの受託事業として、奥入瀬渓流の自然の魅力を伝える次世代ガイド(日本語・英語・中国語)の養成講座を開設しています。
- ・以前、インバウンド旅行者に対し、ネイチャーガイド1人と通訳者1人で対応していましたが、専門用語が通訳の障害となっていました。その問題を解消するために、ガイド養成講座では、通訳者を対象に専門用語に関する英語講習を行なっています。その成果は表れており、英語通訳者だけでも、自然ガイドがある程度できるようになっています。さらに、受講生ネットワークによる自主勉強会も行われています。
- ・台湾からのインバウンド旅行者が多く、中国語ガイドの需要は十分に高いです。

➡ 団体などの詳細はこちら

【NPO法人 奥入瀬自然観光資源研究会】
<https://www.oiken.org/>
 【FORESTON(株式会社ESARIO)】
<https://foreston.jp/>



[山梨県 早川町] 南アルプス生態邑(株式会社 生態計画研究所)

- 09 自らの発見、感動を大切に した宿泊学舎を活かした野生動物との時間を過ごすツアー

！ 注目ポイント

- ・野生動物の調査に基づき、その生態に合わせた観察や接近で野生の姿に迫る
- ・宿舎と自然公園を一体として運営していることから、ツアー設定に施設利用の時間制限がない。
- ・それを活かした本物の体験として野生動物の活動時間に合わせた早朝夜間のプログラムを実施
- ・参加者の発見、気づき、そこから湧いてくる感動を最優先にした導き型のガイド

📍 地域の情報

早川町は山梨県の南西に位置し、糸魚川-静岡構造線(フォッサマグナ)が通る地域で、深い谷を大きな山が取り囲んだ地形です。町内の標高は300m未満から3000mを超えるところまであり、動植物が多様で、南アルプスユネスコエコパークに認定されています。



📄 取り組みの背景と概要



- ・2007年頃、早川町の魅力を伝えるための自然体験施設として、ビジターセンターにテコ入れすることになりました。その際、早川町の野鳥公園設計者の㈱生態計画研究所に相談がありました。そして、プログラムの展開や発展を考えて宿泊施設ヘルシー美里(中学廃校舎を改築)と併せて管理運営を担うことになりました。
- ・早川町の理念は自然と共生する町づくりを意識していました。このため、指定管理者として、運営に当たることに大きな意義を感じました。
- ・山深い地域であることから、自然を常に利用してきた文化と、集落内の自助共助の風土が、まだ色濃く残っていました。それを活かすプログラム開発を住民との連携で進めました。
- ・当初、野生動物を対象にしたツアーは住民には理解されませんでした。回を重ねるうちに、その集客力や観察行為による獣害の防止効果などが認識され、良い関係へと発展しました。
- ・生態調査は、ツアー利用に留まらず、早川町の野生動物保全に役立っています。
- ・宿泊施設利用時間の縛りがないことから、対象野生動物の行動に合わせて早朝や夜間のプログラムを展開し、本物の体験を提供しています。

🔍 代表的なコンテンツ [2021年2月現在]

- ・ムササビウォッチングプラン (1泊2日 大人8,800円)
- ・野生動物ツアー アニマルウォッチングに挑戦！ (1泊2日 大人14,500円)
- ・ニホンジカ調査体験(日帰り1名2,200円)など



⚖️ 環境保全と経済の両立



- ・ガイドスタッフは野生動物の調査研究のスキルを持ち、観察から野生動物の心を探ることが出来るかのように行動を読み取ります。ツアーでは、動物の様子から嫌がっているか、過度な観察になっていないか判断して、プログラムを進めます。
- ・観察ルールの基本は触れない、大声を出さないなど野生動物に配慮した行動です。
- ・ガイドスタッフは参加者の発見を促し、それを大切にします。その理由は、自らの発見と感動こそが、参加者の心に刻まれ、大事なものを残すからです。

🎯 ターゲットと情報発信



- ・主に首都圏からのファミリーです。また、体験学習、教育旅行も主たるターゲットにしています。来場までのコストを考慮して、ツアー価格を抑える代わりにプログラム実施数を増やすことでコストを抑え、収益につなげています。

➡️ 団体などの詳細はこちら

【南アルプス生態邑】 <http://www.hayakawa-eco.com/>
 【早川フィールドミュージアム】 <http://fm-hayakawa.com/fm>